

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100287		
法人名	医療法人社団帰厚堂		
事業所名	グループホーム 若園荘2階ユニット		
所在地	〒020-0886 盛岡市若園町8-11		
自己評価作成日	令和6年12月20日	評価結果市町村受理日	令和7年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

盛岡市の中心、中津川に掛かる上の橋から南に400メートル程の所に位置し、盛岡市内循環バス「でんでんむし」の停留所の正面に事業所があります。幼稚園、小学校、高等学校、武道館の社会資源にも恵まれた環境です。地域の特性を活かしながら、社会との関わりをもち、利用者一人ひとりが生き活きた生活が送れるように努めています。町内会の一員として、地域の行事や集まりにも参加して皆様と交流を図らせて頂いています。子供会の資源回収や、町内会の朝掃除、道路沿いの植木の水やり、文化祭へ作品提供など、利用者様と共に参加させて頂いております。同法人の医療機関と連携を図りながら、防災意識を高め、利用者の健康管理を行い、安心して生活ができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市の中心部に位置し、この3月で開設から12年を経過する2ユニットのグループホームである。建物は3階建て、1階が事務室や相談室、2階と3階が居住ユニットになっている。運営主体の医療法人は、総合病院の他、介護老人保健施設、各種の高齢者介護施設を運営していることから医療と介護の連携が図られており、利用者や家族にとっては、心強く安心感のある施設である。90歳以上の利用者(最高齢105歳)が半数を占めているが、元気な人が多く、職員の丁寧な寄り添いと支援により心身とも安定した生活を送っている。ホームでは、本年度から「介護ロボット(眠りSCAN)」を各居室に導入し、睡眠状態の測定や体調変化の把握が容易にできるようになり、一層の安全、安心な生活環境が整えられた。「子ども110番の家」として安全・安心な地域づくりに貢献するとともに、近隣の幼保、小学校、高校、ボランティアグループ等の社会資源を活用し地域との繋がりを大切にしてきた経緯があるが、コロナ禍で交流がやや停滞しており、感染症の動向を見極めながら地域との交流復活を目指している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念の唱和を行う事で意識付けしている。	運営法人の基本理念である「愛と誠の精神」に基づき、開設時にホームの運営方針として3項目（①一人の人として尊重し、思いに応えられるよう学び続けること②安心のある生活を送れるよう支援すること③自分らしく生きることを大切にすること）を定めている。この運営方針を一人一人のケアプランに活かして実践するよう日々努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃や子供会の資源回収に参加している。	コロナ禍前は、地域の幼稚園、高校、近隣のママさんコーラスグループ等の訪問を受け、活発な交流が行われていた。現在は、町内会の清掃活動への参加、町内会の文化祭への作品展示、子ども会の資源回収へのダンボール提供等、限られた活動にとどまっている。感染症の動向を見極めながら、町内会、幼保、高校、ボランティアの皆さんとの交流を再開するなど、地域との繋がりを復活させたいとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の広報は年2回ある。運営推進会議を通して施設の現状や話題を提供している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設の現状や取り組みについてお伝えしている。参加して頂いている委員からの意見も頂戴している。	委員は地域の町内会長、隣接する町内会の会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、家族代表で構成されている。行事や活動、アクシデント・インシデント等の運営状況の報告をもとに意見をいただいている。来年度からは、事業所の避難訓練や行事に併せて運営推進会議を開催するなど、会議の持ち方を工夫したいとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の改正時に届け出についてアドバイスを頂いている。地域連携会議などもアンケートを通じて協力している。	電話やメールのほか、書類提出時には直接、市担当課に出向くこともある。補助金申請の手続きなど、市担当者とは制度運用や手続き等について質問・確認ができる関係にある。本年度の「介護ロボット(眠りSCAN)」の導入に当たっては、市担当課の協力で円滑に進めることができた。	地域包括支援センターの「地域ケア会議」に出席できない状況が続いています。地域の介護ニーズ、制度改正の流れ等、ホームの運営上、必要かつ有益な情報を得られることから、管理者又は職員の出席が望まれます。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	荘内研修を行い権利擁護の勉強会を行っている。また3ヶ月毎に身体拘束委員会を実施し、現状を把握し、全職員に発信している。	身体拘束廃止委員会は、両ユニットの管理者2名、職員2名、訪問診療医と訪問看護師で構成され、年4回開催している。「眠りSCAN」や「離床センサーマット」の利用状況、スピーチロック、向精神薬の投与の現状等について具体的な話し合いを行っている。また、職員研修も年4回実施しており、職員がケア現場で身体拘束につながると感じた事例を出し合い、対応のあり方などを学んでいる。2F、3Fから1Fに降りて外出しようとする人はいないが、1Fの事務室が不在になる時もあり、防犯上、玄関は日中も施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	荘内研修を行い、意識付けしている。安易なスピーチロックや不適ケア、声掛けに対しての利用者の反応の確認を心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	荘内研修を行っている。成年後見人制度は実例を通して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に個別に説明を行い同意を得ている。介護保険改正時には文書等で知らせ同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やご家族との面談を通して運営に反映している。	コロナ感染予防のため家族との交流が制限される中で、利用者一人一人について、健康面(病気)、生活面(食事)、精神面(人間関係)、連絡事項等をスナップ写真入りのお便りにまとめ、隔月毎に家族に送付しており、喜ばれている。家族からは面会再開の要望が出され、感染症予防に配慮しながら希望に沿えるよう努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ストレスチェックを行い個人の健康管理を行っている。管理者との面談を通し意見、提案を聞く機会を設けている。	管理者は、年1回個人面談を行い、職員の意見、要望、異動希望等を聴取している。また、ユニット合同の業務会議において、勤務や業務の内容について活発な意見交換を行い、課題等については各ユニットに持ち帰って対応を検討している。法人として、職員のメンタル面での健康管理に留意しており、アンケート形式による「ストレスチェック」を全職員対象に行っており、法人の精神科医からの評価を得て、必要に応じ職員に助言、指導を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修を通しての資格取得費用を法人で負担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	荘内研修や外部の研修にも参加できるように提示し情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の系列施設に訪問し新しい設備の使い方を学び、サービスの向上ができるように努めている。また、管理栄養士に来て頂き栄養指導、相談を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思っている事や困っている事を職員が傾聴して安心してもらう事はできている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めての入居は本人様や家族様にとって期待と不安がある。施設側からも関わり方を明確にして接しやすくする努力も続けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	接していくにあたって本人様がどのように思っているかを把握しながら関わっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が不安にならないように職員の方から色々関わっていき何か共通の話題から笑顔や安心を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様だけではなく、家族様から色々なアドバイスを聞いて、一緒に接していく時間を面会として設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が会いたいと思う身近な方や知人等、可能であれば面会を通じて関わっている。	盛岡市内からの入居者が多く、隣人が面会に来てくれている利用者がいる。また、昔からの床屋さんに通っている利用者もいる。コロナ発生前は馴染みの朝市やデパートに出掛ける利用者もいた。今年は、コロナ感染が発生した1月以降、外出を自粛しているが、春になったら、外の空気を吸ってもらえるよう、馴染みの場所や懐かしいところを巡るようにしたいとしている。訪問診療の主治医、訪問看護師、定期的に来所する理髪・美容業者が、ホーム生活でのお馴染みさんになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	色々な人と関わって楽しんでもらえるのが一番良いが、それが難しい方は職場を通じてコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となっても、何かの機会で再び関わる可能性もある。相談の窓口として関係は継続している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話で得た情報をスタッフ全員でその思いや意向の把握にて努めている。また利用者とのコミュニケーションを多く持つようにし、その想いに沿えるように心掛けている。	利用者の約半数は、自らの思いや意向を意思表示できる。思いをうまく伝えることが難しい利用者に対しては、生活歴や家族からの情報をもとに、普段のコミュニケーションを大切に寄り添い、楽しく過ごしてもらうよう支援している。利用者とのやり取り、表情、しぐさ、行動などから気付いたことを「連絡ノート」にこまめに記載し、職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族様と馴染みの関係を築きながら日々中でこれまでの暮らしを捉えていくよう努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレット、申し送りノートを活用し日々の現状を把握し対応できるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化や状態をご本人やご家族と話し合い気づき、意見、要望を反映したり介護計画を作成している。また、ケアカンファレンスを定期的に開催し共有している。	利用開始時、関係機関からの事前情報、利用者の家族からの情報をもとに、本人、家族のアセスメントを行い、管理者（計画作成担当者）が当面の介護計画を作成している。計画作成後3カ月毎に、ケアプランと利用者の生活の状況に齟齬が生じていないか、2Fでは職員間でのカンファレンスを経て、また、3Fでは計画作成担当者が職員からの確認によるモニタリングを行い、訪問診療の主治医、訪問看護師の意見や利用者本人、家族の意向を確認し、居宅ケアマネとも意見交換を行ったうえで計画に手を入れている。短期目標は3カ月、長期目標は6カ月で見直し、利用者の状態に変化が生じた場合はその都度ケアプランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを導入、申し送りノートを活用し、利用者様の記録、情報共有に努めている。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍により面会の形も変化がみられたが、今は以前の形に戻ってきており、外出も希望に沿えるよう、また受診も家族の状況に合わせこちらで対応したりとサービスの多機能に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者自身の参加は今年も難しかったが、地域の文化祭への作品を作成、提供し、運営推進会議も2か月に1回開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望を第一に考えた上で主治医との連携をや大切にし適切な医療が受けられるように努めている。	利用開始時に、本人、家族と協議のうえ、内科は法人系列病院の内科医が主治医となり、月1回の訪問診療を行っている。糖尿病がある1名は、継続して入所前の医療機関を利用している。法人系列病院との契約による訪問看護師が週2回来所し、利用者の健康管理に関する相談や指導に対応している。整形外科、皮膚科、眼科など他診療科への通院は職員が同行している。また、非常勤の歯科衛生士が週2日勤務し、口腔ケアを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中での情報や気づきを訪問看護師に伝え、相談し連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は病院関係者との情報交換や相談に努め、利用者様にとって最善の判断をするように心掛けている。法人病院に入院中の利用者様の情報は密に取り合い早期の退院を心掛けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてご本人やご家族の意向確認(ACP)を事前に行い、主治医と連携を取りながら支援に取り組んでいる。	利用開始時に、施設として最大限の支援を行うが、食事が摂れなくなった場合等、重度化が進んだ時点で、他施設や病院への転移等について、相談、協議を行いながら支援すること、また、終末期における看取りは原則行わないことを利用者と家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化に応じ、運営法人の病院や老人保健施設等からの協力を得られるよう連携を図っている。	ホームの「看取り指針」では、医療連携のもと、終末期の看取りを行うことを定めていますが、現状のホームの体制や職員の力量(看取り経験者なし)から終末期を支えることは困難としています。改めて終末期に向けたホームとして支援の見極めを行いながら、看取りの指針について再検討することが求められます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備と定期的な研修を行い、利用者様の急変や事故発生時にスムーズ対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、職員が有事に対応できる体制ができています。また非常食や備蓄等の準備もできています。	火災想定避難訓練を年2回(日中と夜間想定)実施している。スプリンクラーも設置されたオール電化の事業所である。居住は2F、3Fとなっており、エレベーターが止まるなど、緊急時の避難は非常階段となっている。近隣は高齢者世帯が多く、協力体制を組めない。道路向いのコンビニの店長さんと話し合い、有事の際に協力を得ることとしている。3日分の水と缶詰等の食料、防災物品を備蓄している。	年2回の定例の避難訓練だけでなく、毎月、日を定めて、運動やリハビリも兼ねて非常階段を歩いて玄関前まで降りる「ミニ避難訓練」を行うなど、避難訓練の方法を工夫してみることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場になって考えプライドを傷付けないような言葉掛けや関わりを意識している。	職員は、同じ話を何度も繰り返す人に丁寧に対応するなど、利用者一人一人の認知症の状況をよく理解し、本人のプライドを大切にして、自己決定しやすい言葉かけによる支援を心がけている。利用者のプライバシーの保護のため、記録ファイルやパソコン入力情報の取扱いをルール化し、職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択ができるように声掛けを行っている。拒否がある時も無理強いせず、時間を空けて声掛けを行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて支援を行っている。体調や要望に沿った対応ができるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や整容等見守りや声掛けを行い、その人らしい身だしなみを支援している。定期的に訪問美容でヘアカットやカラーを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付けを利用者様に手伝って頂いている。苦手なメニューは食べれるメニューに変更して提供している。食べやすい形態、行事食等工夫している。	朝食と夕食は主食とみそ汁以外は外部委託による配食としている。昨年12月に業者を変え、利用者からの評判はいい。昼食は法人本部の管理栄養士が作成した献立に沿って職員による手作りの食事が提供されている。午後3時にも手作りのおやつが提供されている。刻み食やお粥の人はいるが、ミキサー食の利用者はいない。職員は一緒に食事は摂らず、見守りを行っており、各ユニット2人が一部介助を必要としている。利用者は、出来る範囲で後片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、形態、水分量を管理栄養士のアドバイスを頂きながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けや介助を行っている。週1回歯科衛生士の指導を受け清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせて声掛けとトイレ誘導を行っている。	日中は、排泄チェック表により、見守り、声がけ、誘導を行い、全員がトイレで用を足している。排泄を整えるため、牛乳、野菜ジュース、ヤクルト、ヨーグルト等を活用している。夜間、居室でポータブルトイレを使用する利用者が2F2人、3F4人いる。「見守りSCAN」を全居室に配備し、4人が「離床センサーマット」を使用している。自立に向けた改善は難しいが、現状を維持すべく支援に力を入れている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、乳製品や食物繊維を継続して取り入れている。訪問看護と連携して便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を考慮したり、拒否がある場合は無理強いせず対応している。	土・日も含み3日に1回、午前中に入浴している。好きな歌をラジカセで聞いている利用者、歌を歌う利用者もいる。湯舟が大きく、深い。台を置いて入るようにしており、よく温まるとして利用者に好評である。入浴介助の職員との1対1の会話が弾む人もいる。入浴拒否や異性介助を嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルや体調を考慮した休息支援をしている。環境整理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルにて薬の目的や副作用を理解している。飲み込みまで確認するように心掛けている。決められた時間を守るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの特技、嗜好を考慮しお手伝いをお願いしている。毎日数分でもレク活動を行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設行事としてお花見や紅葉狩りは出かけている。一人ひとりの希望にはなかなか添えないこともある。	天気の良い日は、外気浴を兼ね、バスセンターや上の橋あたりまで散歩している。利用者の要望で職員と1対1で朝市やデパートに出掛けることもある。感染症予防に配慮しながら、小グループでお花見や紅葉狩りなど四季のドライブを行っている。家族のお誘いによるお墓参りや外食にも応えるようにしているが、現状では外泊は遠慮してもらっている。家族からは、外出の機会を増やしてほしいとの要望が多く、コロナの収束を見定め、家族の協力を得ながら対応したいとしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 若園荘2階ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理となっている。感染症対策として買い物支援は行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族への電話をかける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が不穏にならずに極力刺激がないよう環境整備に配慮している。例)夜の睡眠の質を高めるためベッドの位置を工夫した。	食堂兼ホールを取り巻くように居室が配置されている。構造上、ホールから死角になっている居室もあるが、睡眠の状況や体動を測定できる「眠りSCAN」の導入によりベッド等での利用者の様子を離れたところから確認できるようになった。ホールの天井やフロアは茶系色で統一され、落ち着いた雰囲気がある。壁面には利用者のプロフィールや(訪問が2月下旬であり)ひな祭りの装飾が飾られていた。全館エアコンで空調管理され、一年を通して快適に過ごせるよう配慮されており、利用者は、2Fは3卓のテーブル、3Fは長テーブルの指定席でくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とホールを入居者様が自由に過ごせるように居心地が良い場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が安心して過ごせるよう出来る限り使い慣れたもの等を用意している。	ベッド、クローゼット、チェスト、洗面台が備え付けになっており、ベッドは好みの位置に配置されている。半分位の利用者がテレビを持ち込んでいる。昔から使っている学習机に百科事典を並べたり、家族写真を飾ったりしている人もいる。それぞれが自分好みの部屋づくりを行い、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド回りに障害物は置かず整理整頓に努めている。タンスにはわかりやすく服の種類を提示しています。		